

1 プロジェクト内容

(1) プロジェクト名	焼き物を通じた国際文化交流と登り窯の焼成
(2) プロジェクトの成果 (※そのような成果が得られたかについて具体的に記載)	<p>名古屋学院大学瀬戸キャンパスにある登り窯を焼成するにあたり、まずはより多くの人に作品制作や焼成に関する作業に関わってもらい、瀬戸の焼き物文化として今では貴重なことである“登り窯で実際に作品を焼く”という工程を多くの方に見て、知ってもらうこと。そして市内の陶芸家と海外の陶芸家との交流の促進も図ることができた。</p> <p>焼成された作品は留学生が一日体験で作成したもの、海外陶芸家が素焼きの状態を持参、また瀬戸で購入した原料を使用して作成したもの、そして地元陶芸家は自作の作品を持ち込み総点数は800点にも及んだ。焼成の結果は大変良好で参加者全員が、また同様の機会があれば参加したい...との声が多かった。焼成期間中の見学者も広く受け入れ、地元品野台小学校の父兄のグループや瀬戸市の若手職員の方々など、実際に見たことのない登り窯の焼成作業を見学していただき、各メディアの報道とともに、市内各所で広く知ってもらうことができた。期間中市内陶芸家との交流の機会も設け工房見学やワークショップを通じて、来年には1名の陶芸家が瀬戸からアメリカへ出向く計画が進んでいる。</p>
(3) プロジェクト実施内容 (※事業の実施方法、時期、場所、回数、市民への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載)	<p>1 9月30日 21名の留学生の陶芸体験をNGU 瀬戸キャンパス陶芸館で開催、作品を登り窯で焼成して10月26日大学を通じて贈呈</p> <p>2 参加陶芸家 瀬戸市10名 (せとまちツクリテセンターを通じて6名、その他瀬戸工科高校専攻科学生など)、アメリカ11名 (The Potters' Studio より)、香港4名 (参加陶芸家の関係で参加を希望されたため受け入れ) が作品を窯に入れて焼成に関わった 作品制作10月10日から、施釉、窯詰めを10月18日までに、19日から22日未明まで焼成</p> <p>3 見学お勧め日時を10月20日(金)、22日(土)夕方から21時ぐらいに設定。期間中見学者、品野台小学校関係者延べ30名、瀬戸市役所関係者延べ20名、陶芸家8名その他不明多数</p> <p>4 取材媒体グリーンシティケーブルテレビ、中日新聞、読売新聞、瀬戸市シティープロモーション課 他 関係者それぞれがInstagramなどSNSで発信に努めた。</p> <p>5 アメリカ陶芸家滞在中24日(月)、25日(火)にエクスカージョンとして地元窯元、作家の見学、体験を開催 6軒(樽田裕史、加藤真雪、長江哲男、道川省三、竹内真吾、ギャラリーもゆ)</p> <p>6 10月25日 交流パーティー at ますきち 26名の参加</p>
(4) プロジェクトの今後の課題と展望	

瀬戸の焼き物文化の奥深さを登り窯の焼成だけでなく、市内陶芸家との交流で海外陶芸家に知っていただくことができたが、その瀬戸の焼き物文化をもって海外に進出する切っ掛けにすることが重要である。実際には瀬戸から海外へ出向いてワークショップを行ったり、海外通販で交流した作家の作品を購入してもらう事例が始まっている。その動きをさらに加速させ、今回の体験者の口コミも通じて瀬戸へ訪れたい海外の陶芸関係者をさらに増やしていくことが、地域の国際化につながると同時に、伝統的な焼き物文化を通じた地域の活性化にもつながっていくことを期待したい。

(注) プロジェクトに関する参考資料がある場合は、A4サイズで添付してください。